

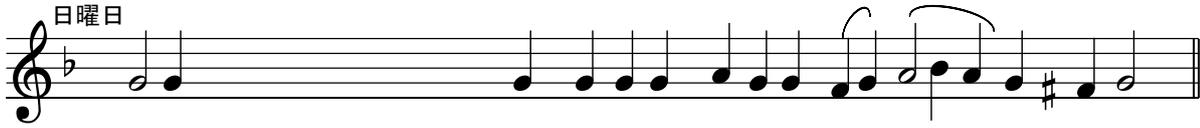
# 6 調

「主や爾に呼ぶ」の

## 生神女讃詞

6 調

日曜日



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世 世 - に アミン



生 神 女 よ 爾は天使首の 声に よりて 父及び 聖 神 - と



同無限なる ことばを 体内にはらみて ヘルビム、セラフィム



および 宝 座 より 上なるものと あらわれた - り

月曜日



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世 世 - に アミン



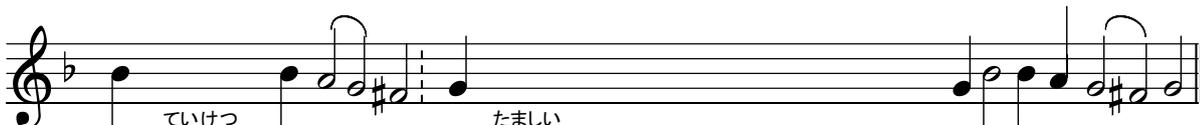
至浄なる 童 貞女よ 爾の仁愛の淵、 爾の慈憐のふか み



仁慈の 数えがたき 恩 - を 我不当の者の上に あらわしたま - え



救世主を 生みしものよ 吾が罪のくさむらを 枯らして



我に貞潔<sup>ていけつ</sup>をあた - え 吾が<sup>たましい</sup>霊と体とを汚れなき者としてまもりたま - え



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世 世 ー に アミン



救 世 主 よ 爾の潔き母 童 貞 女 は 至りて不法なる 人々が



爾を木に <sup>てい</sup>釘するを 見ると き シメオンの預言せし如く



その 心 傷 つけ られた - り



光 栄は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世 世 ー に アミン



至浄なる もの よ 凶悪なるてきは 爾の牧群を

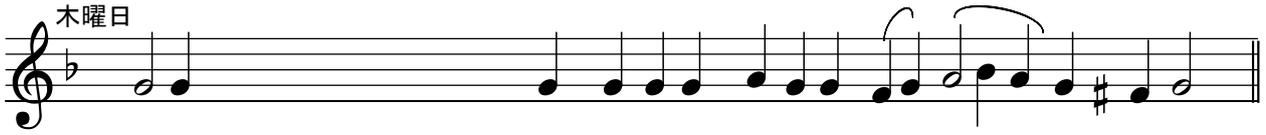


ねたみて 常にこれと <sup>た</sup>闘 かい て 己の食と 為さんと 欲 - す



もとむ、 生神女 よ 爾我等をその害よりすくい たま - え。

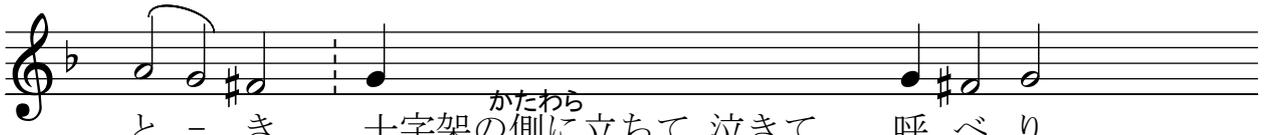
木曜日



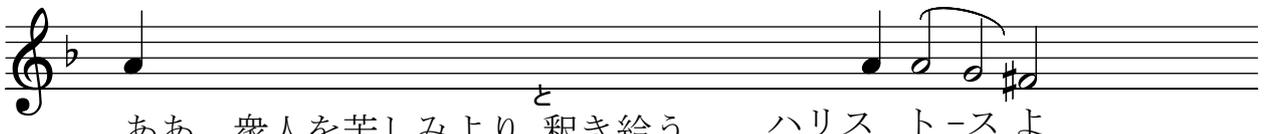
光 榮は父と子と聖神に帰す、いまも いつも 世 世 - に アミン



童 貞 女 は 童 貞 の 門 徒 と と も - に かつ て 主 の 釘 せ ら る る



と - き 十 字 架 の 側 に 立 ち て 泣 き て 呼 べ り



あ あ 、 衆 人 を 苦 し み よ り 積 き 給 う ハ リ ス ト - ス よ



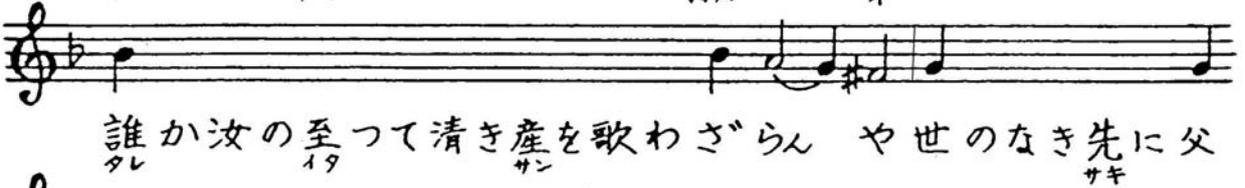
い か ん ぞ な ん じ 苦 し み を 受 け た - る



光栄は父と子と聖神に帰す今もいつも世 世 にアミン



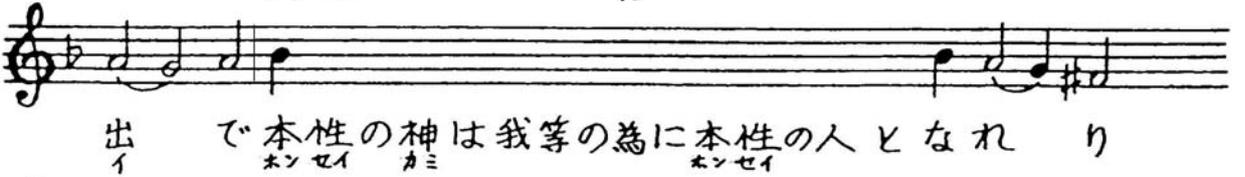
至聖なる童貞女や 誰か汝を福なりと言わざらん や



誰か汝の至つて清き産を歌わざらん や世のなき先に父



より光る独生の子は汝清きものより言いがたく身を取りて



出で本性の神は我等の為に本性の人となれり



その位一つにして相分かれずその性二つにして相失なわす



清くして至つて福なるものや我がたましいの憐れみを



こうむらんことを彼にいのりたまえ